

ベンレート® T水和剤 20

■種類名：チウラム・ベノミル水和剤
 ■有効成分：チウラム-----20.0%
 ベノミル-----20.0%
 ■PRTR法指定物質：チウラム [第1種] -----20.0%
 ベノミル [第1種] -----20.0%

■登録番号：第20888号(住友化学登録)
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2002.09.03
 ■性状：灰色水和性粉末 45μm以下
 ■有効年限：3年
 ■包装：100g×100袋、500g×20袋、
 10kg×1袋

【特長】

- チウラムとベノミルを混合した種子消毒剤で、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病をはじめ、もみ枯細菌病にも有効。
- イネシンガレセンチュウにもすぐれた効果がある。
- 水稻以外にも、麦、大豆、いも類、野菜、球根類の消毒ができる。

【適用内容】(2015年1月21日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	ベノミルを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ばか苗病 ごま葉枯病 イネシンガレセンチュウ	20倍	浸 種 前	1回	10分間種子浸漬	1回	2回以内 (種子への 処理は1回 以内、床土 への混和は 1回以内)
		200倍			24~48時間 種子浸漬		
		乾燥種籾重量の 0.5~1%			種子粉衣(湿粉衣)		
		7.5倍 (乾燥種籾 1kg 当り 希釈液 30ml)			種子吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理		
	ばか苗病 いもち病	200倍			6~24時間 種子浸漬		
		400倍			24~48時間 種子浸漬		
	もみ枯細菌病	乾燥種籾重量の1%			種子粉衣(湿粉衣)		
		3.75倍 (乾燥種籾 1kg 当り 希釈液 30ml)			種子吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理		
	褐条病 苗立枯病 (リゾーパス菌) (トリコデルマ菌) (フザリウム菌) (ヒシウム菌)	乾燥種籾重量の 0.5~1%			種子粉衣(湿粉衣)		
		20倍			10分間種子浸漬		
変色米 (カーボリア菌) (アルナリア菌)	200倍	24~48時間 種子浸漬					
	乾燥種籾重量の 0.5%	種子粉衣(湿粉衣)					
麦類	斑葉病 なまぐさ黒穂病 裸黒穂病 条斑病	20倍	は 種 前	1回	10~20分間 種子浸漬	1回	
		200倍			6~24時間 種子浸漬		
		7.5倍 (乾燥種籾 1kg 当り 希釈液 30ml)			種子吹付け処理 (種子消毒機使用)		
	乾燥種子重量の 0.5%	種子粉衣					
雲形病	乾燥種子重量の 0.5%						
きゅうり	つる割病 つる枯病 苗立枯病	20倍			30分間種子浸漬		4回以内 (種子への処 理は1回以 内、は種後 は3回以内)
		乾燥種子重量の 0.4%			種子粉衣		

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	ベノミルを 含む農薬の 総使用回数	
トマト	萎凋病	200 倍	は種前	1 回	30 分間種子浸漬	1 回	6 回以内 (種子への処 理は1 回以 内、灌注は2 回以内、散布 は3 回以内)	
すいかの 接木用の ゆうがお	つる割病	乾燥種子重量の 0.4%			1 回			
すいか					6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は5 回 以内)			
だいず	紫斑病	乾燥種子重量の 0.2~0.4%			5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は4 回 以内)			
かんしょ	黒斑病	20 倍	植付前	1 回	1 分間さし苗 基部浸漬	2 回以内	1 回	
さといも		200 倍			30 分間 さし苗基部浸漬			
	20 倍	1 分間 種いも浸漬						
さとうきび	種いも重量の 0.4~0.5%	種いも粉衣						
はとむぎ	黒穂病	20 倍	は種前	10 分間種苗浸漬	2 回以内			1 回
とうもろこし	葉枯病 黒穂病	200 倍		24 時間種苗浸漬				
かぼちゃ	苗立枯病	乾燥種子重量の 0.5%	は種前	72 時間種子浸漬	2 回以内			1 回
らっきょう	フザリウム立枯病			種子粉衣(湿粉衣)				
にんにく	乾腐病	200 倍	植付前	1 回	種子粉衣			1 回
やまのいも	黒腐菌核病	種球重量の 0.5~1%			30 分間種球浸漬			
	イグサセンチュウ	種球重量の 1%			種球粉衣(湿粉衣)			
	褐色腐敗病 青かび病	100 ~200 倍			10 分間 種いも浸漬			
やまのいも (むかご)	根腐病	20 倍	植付前	1 回	約 2 秒間 種いも浸漬	1 回		
	青かび病	種いも重量の 0.3~0.5%			種いも粉衣			
ぶどう	褐色腐敗病 青かび病	100~200 倍	休眠期	1 回	10 分間種いも浸漬	3 回以内 (休眠期は 1 回以内、 生育期は 2 回以内)	4 回以内 (休眠期処 理は 1 回以 内、散布は 3 回以内)	
べにばな	黒とう病 晩腐病	80~200 倍						
くわい	炭疽病	乾燥種子重量の 0.5%	は種前	1 回	種子粉衣	1 回	1 回	
		10 倍			24 時間種子浸漬			
豆類 (種実)	赤枯症 (フザリウム菌)	300 倍	種いも 貯蔵前	1 回	30 分間種いも浸漬	1 回	1 回	
野菜類	フザリウム・ リゾクトニア菌 による病害	乾燥種子重量の 0.2~0.5%	は種前		種子処理機による 種子粉衣			
		乾燥種子重量の 0.4~0.5%						

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	ベノミルを 含む農薬の 総使用回数
花き類・ 観葉植物	フザリウム・ リゾクトニア菌 による病害	乾燥種子重量の 0.5%	は 種 前	1回	種子処理機による 種子粉衣	1回	1回

作物名	適用病害名	希 釈 倍 数	使用 時 期	本剤の 使用 回 数	使用 方 法	チウラム を含む 農薬の総 使用回数	ベノミル を含む 農薬の総 使用回数
日本芝 (こうらいしば)	葉腐病(ラージパッチ) ヘルミントスポリウム葉枯病	1000 倍	発病 初期	6回 以内	1㎡当り 1~2 粒 散布	8回以内	8回以内
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ) ヘルミントスポリウム葉枯病						
西洋芝 (パーミュエダグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病						

【効果・薬害等の注意】

○一般的注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 薬液の調製は少量の水で糊状としたのち、所定量の水を加え、よく攪拌すること。
- 種子およびかんしょのさし苗基部(10cm くらい)等の浸漬の場合は(水稻の場合を除く)、浸漬後水洗せずに風乾してから播種および挿苗等を行うこと。
- 麦類の種子粉衣の場合、機械播種では本剤が時間とともに吸湿することがあるので、目詰りを起こさないように注意すること。
- 本剤を稲の苗立枯病防除に使用する場合、リゾープス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌に対する防除を主体とし、多発生のピシウム菌には効果が劣ることがあるので注意すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。

○水稻の種子消毒の場合は下記の注意事項を守ること。

- 水稻の種子消毒は浸種前に行ない、消毒後は水洗せずに浸種すること。
- 薬液の温度はなるべく 10℃以下を避けること。
- 種籾はサラン網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
- 吹付け処理の場合は専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するように所定薬液を吹付けて乾燥すること。処理後長期間保存する場合には、薬剤処理を行なったことを明記し、間違いのないようにすること。
- 塗沫処理の場合は容器内で種籾を攪拌しながら薬液を滴下し、種籾に均一に付着させる。
- 粉衣処理の場合、付着をよくするため、予め種子を湿らせ(塩水選水切り後などが適当)粉衣すること。
- 本剤処理を行なった種子の浸種に当っては、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 薬剤処理した種籾(吹付け処理した種籾は除く)は、少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
 - ◆ 浸種は停滞水中で行うこと。
 - ◆ 浴比は 1:2 とし、水の交換は行なわないこと。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水すること。
 - ◆ 魚介類への影響を避けるため、河川、湖沼、ため池などで浸種しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

【安全使用上の注意】

- ※ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- ※ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ※ 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ※ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ※ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ※ 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が、使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ※ 本剤で処理した種子等は食品や動物飼料として用いないこと。
- ※ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ※ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。